

第16回企業短観調査 (2020年5月)

調査結果

(1) 回収状況

業種	対象事業所数	有効回答数 (回収率)
卸売業	39	4 (10.3%)
建設業	254	25 (9.8%)
小売業	506	27 (5.3%)
サービス業	382	41 (10.7%)
製造業	122	16 (13.1%)
全業種	1,303	113 (8.7%)

考察

●売上・収益ともに前回調査に引き続き「減少」が最も高い割合を示した。新型コロナウイルスの影響で、大型連休中も休業要請に該当した飲食店などは苦戦を強いられた。大きな影響を受けながらも、テイクアウトによる売上確保を図ろうと「大仙エール飯」を立ち上げた。店舗によっては、一時的に売上が前年より増加したが限定的である。インターネットによる広告宣伝効果は一定程度あったとみられる。今後の見通しも「減少」が多く占めており、先行きが見通せない。

●資金繰り、人手状況はそれぞれ「変わらず」・「適正」だった。6月になると、緊急事態宣言及び休業要請の解除によって経済活動が徐々に再開されると考えられる。特に感染リスクの高い施設では感染予防を徹底した上での再開となるが、昨年並みに顧客が戻るかは依然不透明。第2波の懸念もあり、今後の動向を見極める事業所は多いと考えられる。

